

在京石鳥谷町人会だより

(題字 旧石鳥谷町長 高橋 公男 氏)

在京石鳥谷町人会だより

事務連絡所 花巻市東京事務所内
〒100-0006

東京都千代田区有楽町 2 丁目 2 番 2 号
(数寄屋橋大雅ビル 3 階)

TEL:03-3573-5773 FAX:03-3573-5727

事務局 〒187-0031 東京都小平市
小川町 1817-39

大竹雅夫方 TEL:FAX 042-332-3025

「あいさつ」



在京石鳥谷町人会
会長 高橋 弘美

会員の皆様、こんにちは。高橋弘美でございます。皆様におかれましてはお健やかに過ごされたこととお慶び申し上げます。

さて、私は引き続き大阪に単身赴任中ですが、会員の皆様へ何か情報をご提供できればと思いい「関西岩手県人会」にも入会しております。先般初めて総会および懇親会に出席しましたので、その様子をお知らせしたいと思います。

〈総会の様子〉日時・平成二十五年一月二十七日 十一時 場所・大阪駅近くの「スーパードライ梅田店」総会議事内容・事業報告については、特に東日本大震災の被害

者の皆さんに向けた活発な募金活動や被害地訪問、子供たちへの育英資金(奨励金)の調達等を中心に審議され、決算報告も含めて議案はすべて承認されました。

〈懇親会の様子〉①達増岩手県知事もご臨席され、「過去に戻す復興ではなく、未来に追いつく復興をスローガンに」と具体的なビジョンも含めて今後の復興計画をお話しされました。また、カラオケタイムでは知事自ら「嫁に来ないか」

(岩手に沢山人が来るようにとの意味だそうです)を熱唱されるなど、和やかな雰囲気では進みました。②会員総数二一六名のところ、当日は七十二名の出席でした(いつもよりは少ないとのこと)。この中に石鳥谷出身の人はいないかと、探しまくったところ・・・いました、

いました。好地出身の菊池満昭さん(この方は高校の先輩で以前からお会いしています)、八重畑出身の村上忠夫さん(会社の社長さん)、

好地出身の菊池敏博さん(石鳥谷出身で数少ない(唯一人?)東大ご卒業とのこと)、新堀出身の川上康子さん(大正橋を渡ってすぐのところ)がご実家とのこと)、以上四名の方

と楽しくお話し出来ました。在京石鳥谷町人会のことを話題にしたところ機会があれば是非出席したいとのことでした。この方たちの住所も入手していますので、会員の皆さんの中で連絡を取りたい方がいらっしやいましたらご連絡ください。

次に、「関西岩手県人会」の歴史をお知らせします。

・昭和三十一年五月八日に「関西岩手郷友会」として設立され、平成三年四月一日に「関西岩手県人会」と名称変更、二〇一五年に設立六十周年を迎える。

・会長 鎌田龍児氏(北上市出身、フリーTVアナウンサー)
・会の目的「岩手をふるさと」とする、あるいは「岩手にご縁のある」方々の親睦を図り、併せて「ふるさと岩手」の隆昌発展に寄与する。

以上「関西便り?」でした。引き続き情報入手に努めたいと思います。東日本大震災・復興支援をして忘れることなく、しかし日々の生活は普通に且つ大胆にいきたいものです。また皆さんとお会いできる日を楽しみにしております。

阿佐ヶ谷にて石鳥谷物産展

新堀出身

吉田 久美子

十月十九、二十、二十一の三日間杉並区阿佐ヶ谷にて、石鳥谷町物産展が開催された。

野外での物産展なので雨は大敵、今回は曇りのち晴れで、ホツとしながら初日のお手伝い。

和菓子のお喜平堂さんのお店、次に漬物の共同農産、また少し歩くと大迫のエーデルワイン、板垣農園その次にまんまの五つのお店が少しずつ離れての販売。

阿佐ヶ谷すずらん通りは、都内でも有数の元気でにぎやかで人通りも多い沢山の商店が並んでいる激戦地域である。

その通りの先で物産展となった。初日、物産販売り場は町人会の有志だけの販売となった。大丈夫！商品には全部値段が貼ってあったから！

午前中、男性陣の元気な呼び込みが始まった。「どこの野菜なの」と寄って聞かれる。「岩手県花巻市石鳥谷町です」「あっ、それならい

いわね」と言われた。

一昨年の原発事故以来、消費者は食に関して厳しい目を持っている。安心と言われ販売者として嬉しかった。

安全で安心な食べ物が第一である。それに新鮮で安いと四拍子揃っている。

物産展に寄ってみて下さる方は皆さん買ってくれた。朝、トラック一台に積んできた農産物は夕方には、八割がた売ることが出来た。

故郷との絆を感じつつ充実した一日でした。



お江戸で郷土のふれあい

八幡町づくり協議会

鎌田 愛子

在京石鳥谷町人会の総会・親睦交流会が毎年開催されていることは知っていましたが、今回郷土芸能とし

て春日流八幡鹿踊りの皆さんが出演されるといふこともあって、私たち八幡まちづくり協議会役員も参加させて頂きました。

総会資料と在京石鳥谷町人会だよりを拝見しますと、独自の活動も去ることながらいかに郷里石鳥谷にお力添えを頂いているのがわかりました。改めて感謝申し上げます。

今年度は参加していませんでしたが、義叔父がお盆帰省の際によく交流会の話をしていました。生まれ育った地域の神楽が出演した時の事や知人との思い出、そして新しく出会った人との話など楽しく語ってくれました。実際参加してみても交流会の企画や進行・余興など役員の方々の手づくり感が出ていてとても楽しいひと時でした。残念ながら私の知っている方はおりませんが、この東京のこのホールにいる皆さんが石鳥谷出身ということが不思議でもあり、またこんなに広い東京でもひとりではないのだと痛感しました。

以前若かりし時、高校卒業後夢を抱いて東京・・・五年間の青春時代がこの東京にありました。ひとり暮らしの辛さに母に電話したり、手紙を書くこと数回、未だに実家に帰

ると母から言われます。言うまでもなく夢破れて帰郷、何も言わずに迎え入れてくれた両親にはとても感謝しています。色んな意味で現在では日本中どこにいても岩手県人がいる！石鳥谷町民がいる！“郷里とのつながり”とは、スーパーで岩手県産の物を見つけると懐かしくてつい買ってしまったたり、めったに降らない雪が舞うとキーンと澄んだ雪景色が脳裏に浮かんできたりと、遠く離れているからこそわかる感覚です。

石鳥谷町に暮らしている私たちは、昔の良き伝統を次世代へ受け継ぎ、そして新しい思い出づくりとして情報を発信していくことが在京石鳥谷町人会の皆さんとの交流をより深め、更に“絆”を強くするものと思えます。今後とも宜しくお願い致します。



石鳥谷町人会に参加して

麻布十番在住

有田 睦子

第二十五回石鳥谷町人会に参加しました。精養軒に着き受付を済ませ会場に入ると、大勢の方々

活気にあふれる行動と元気な挨拶に迎えられました。石鳥谷は母(八重畑)の故郷です。今日は友人に誘

われて参加なので、私はあまり知り合いがいけないのではないかと思

いながら席に着くと何人かの顔見知りの方に声をかけられほっとし

ました。会場には石鳥谷や花巻の物産展が出ていたので大荷物にな

るほど買物をしてしまいました。定刻通りに会が始まり石鳥谷から大勢の参加者のご挨拶の後、総

会も無事に終了し懇親会が始まりました。食前酒で乾杯の後、ビール、日本酒、ワイン等テーブルに供さ

れ話が弾みました。舞台は友人の出演するハワイアンの番になり初めて見る彼女たち

のしなやかな動きに見とれてしまいました。ハワイアンは大盛況で皆さんの嬉しそうな顔で会が一層

和やかな雰囲気になりました。同席の方に「早くお餅を頂かないと無くなるよ」と声をかけられ

「踊りの後で」と言うと、私が舞台に夢中になっている内にテーブルにお餅が並びました。同席の方

の心遣いに感謝！朝早くから幹事さんが協力して作った搗きたてのお餅(くるみ、ご

ま、あんこ)それと具だくさんのなつかしい故郷の味「芋の子汁」岩

手にいた頃を思い出しながら頂きました。とても美味しかったです。

続いて石鳥谷出身の川村はつ子さんの民謡、八幡の春日流の鹿踊

りと会が大いに盛り上がりました。鹿踊りの方と各地区ごとに記念撮

影をし、いよいよ大抽選会が始まりました。会員や各方面からの提

供による景品に皆嬉しそうな笑顔でした。続いて恒例なようですが、

参加者全員による「石鳥谷音頭」初めての参加の私も身振り手振り

を真似して踊りました。あつと言

う間に会の終了の時間になりました。帰りには沢山のお土産と自分の

買った事があり懐かしく新聞広告を見て参加された方と駅まで昔話を

しながら御一緒しました。やっぱり故郷があるっていいな

と思いつつながら帰宅しました。有意義で楽しい会に参加できお土

産まで頂き有難うございました。俄か石鳥谷町人ですがまた来年

も参加したいと思っております。



東京公演を終えて

春日流八幡鹿踊保存会

藤原 敏也

此の度私達春日流八幡鹿踊保存

会は在京石鳥町人会の集いに招かれ公演に行つて参りました。十一月四日、その日は秋も深まった折

り岩手はもうすぐ冬支度を始める頃であります。鹿踊は例年だと秋

祭りが終わる十月にはその役目を終え来春を待つのが恒例となつて

おりますが、今回の八幡コミュニティ様からの御依頼を請け喜んで参加させて頂いた次第でした。

通常日曜日の公演であれば踊り手の確保は比較的容易なものですが、

今回は四日未明の出発、翌日〇時帰還という言葉が強いスケジュールだったこともあり、通常八名で

踊るところを六名の参加となりました。鹿踊に詳しい方に於かれましては物足りなく感じる方もおられるのかなと心配しておりました

が私達の心配はどうやら杞憂だったようです。本来鹿踊は佛崇拝、念仏供養を

本懐としながらも宮参りをはじめとする神事を執り行う芸能でもあります。近年では各種イベント、

結婚式、観光PRなどでも披露する機会も多々有ります。こうしたイベント会場で踊る際には様々有る唄や踊りの中で何を演

ずるのがいいか悩むところでありましたが、今回は在京石鳥谷町人会の皆様が御列席くださるといふ事でしたので、踊りはやはり郷土の皆様が子供の頃から目にする事が多かったはずの一番庭踊になりました。唄の自身としましては会場を褒め讃える唄を盛り込みました。

さて、本番です。控室ではメンバーには心地良い緊張感と気合に満ちた表情がみられましたが、司会の方のご紹介を頂き、いざ「太鼓の調べ」を叩き始めてからもう一杯踊って楽しむだけです。会場のテーブルの間を道太鼓を叩きながらステージへ向かう私たちを郷土の皆様は温かい拍手で迎えて頂きました。踊りが始まるとそれまで旧交を深めて盛り上がっていた皆様も暫しグラスを置いて集中して御覧頂いているのがステージ上からもはっきりと判りました。皆様の方からは私達の表情は何い知る事は出来ませんが、こちら側からは皆様の表情が手に取る様に見えました。

た。又恐らくは初めて観たであろうと思われる精養軒のスタッフの方などの皆様の温かい視線の中で踊ることが出来ました。踊り終えると万来の拍手を頂き私達の方が感激致しました。

又、玉山会長が私達を一人ひとり紹介した際には「あーあその家の息子さんか。」という声も聞かれました。例え今まで一度もお会いした事が無くても、遠く東京の空の下でくらししておられたとしても私達には同じ郷土の血が流れているんだという一体感に包まれた瞬間でした。私も長年鹿踊りをやってきて数々の場を踏んで参りましたが、こんなに暖かい空気に包まれたのは初めての事でした。

「毎年来てくれない?」と言って下さった方もおられましたが出れば私も毎年来て踊りたいと思いました。残念ながら順番がありませんので次回は又六年以降の上京となりそうですが、その時まで皆様のご健勝を祈念しつつ私達は心地良く帰路につきました。最後になります、石鳥谷町人会役員各位の皆様には大変お世話になり誠に有難うございました。



ふるさと紀行

広報担当 飯塚 悦子

町人会のリンゴのオーナーの案内を見て、数年前から伊藤果樹園(石鳥谷町五大堂)のオーナーをしています。

毎年収穫祭のご連絡を頂くのですが、なかなか行けず実家から行ってもらっていましたが昨年十一月初めて行きました。

自分の名札のついたリンゴの木、伊藤果樹園さんが手をかけて管

理して下さったのに自分が育てた木のように、何だかとてもいとおしく思えました。取り立ての味もまた格別でした。町会のお土産に頂いた二個のリンゴは、伊藤果樹園さんからご協賛頂いたものです。

右端が飯塚さん



故郷の紅葉は色鮮やかで、たとえようのない美しさでした。



花巻市文化会館駐車場の紅葉は真っ盛り

飯塚 悦子

この季節(四十数年ぶり)に見た岩手山と早池峰山は、白い帽子を頂き雄々しく、神々しさを讃えていました。

遠く姫神山も霞んで見え、岩手三山に心を洗われたような気がしました。

岩手山



早池峰山



ときめき米【朝柴】の意味は？

飯塚 悦子

昨年の町人会のお土産として配

られた、ときめき米【朝柴】は、古代米(もち米の一種)とも呼ばれています。

「田んぼアート」にも使われ、八幡町づくり協議会から寄贈されたものです。

お味は如何でしたか？



田んぼアート

昨年町人会のお土産に配られた、ときめき米(朝柴)を使った「田んぼアート」は、その後どうなっているか見に行ってきました。

(八月上旬)



広い田んぼキャンパスに見事なアート図

(十一月上旬)



稲刈り後の切り株のアート図

百歳の先輩

飯塚 悦子

小松カツミさん(石鳥谷町好地出身)、百歳を迎えられた現在も信玄袋を作っておられます。

これまで何度か石鳥谷町人会にも頂きました。昨年の町人会には、ご家族の方と一緒に行き、二百個以上お届けに出で頂き、出席者へのお土産に使わせて頂きました。小松さんは、いろいろな施設等にも信玄袋を寄贈し、内閣総理大臣、東京都知事等から表彰されており、地元新聞(都内)にも

掲載されました。以前「石鳥谷町人会だより」(七号)にも紹介しましたが、同郷出身の小松カツミさんは私達の誇りでもあります。いつまでもお元気で！



お元気な百歳

板垣 寛さんの執筆された『巨大氷柱たろし滝』に誘われて

総務担当 大竹 雅夫

これまで写真でしか見たことがありませんでしたが、たろし滝を親に行ってきました。実物はかなりの迫力ある大ツララでした。二、三〇〇人の人が集まったのではと思います。駐車をしてから仮設の橋を渡って急な上り坂。足元は踏み固められた雪道でしたが、気温が低いので雪の固まりが悪くロープにつかまっつての急坂を滑ら

ないように用心しながら辿り着きました。大石市長、佐々木県議、菅原石鳥谷支所長が見えておりました。板垣会長、菅原石鳥谷支所長にはご挨拶できました。測定結果は五・五六メートル。



終わって帰りに入り口の道路にテントがあり、板垣さんの奥さんをはじめとした婦人ボランティアの皆さん方の作ったひつつみ汁と濃い甘酒をご馳走になりました。帰途の道路につるし雛の幟旗が何本もあったので、八日市振興センターに寄ってみましたら、十五日の開会をめざして準備たけなわのところでした。つるし雛も本場のものを見たいと思っておりまし

ので、思いがけず見ることが出来て感激しました。櫻井サトさん宅のお雛様も一番奥に鎮座しておりました。高橋多美さんにもお目に掛かれて幸せでした。

八日市つるし雛祭り

ひと針に愛を込めて
ひと針に心を込めて
ひと針に夢をのせて

広報担当 櫻井 サト

三月一日、今年の石鳥谷はまだ雪深く四〇〜五〇センチ位の積雪が有り、銀世界に粉雪舞う寒い日につるし雛展に行ってきました。八年目となる今年は、二月十五日〜三月三日の間、いきいき交流館にて開催されました。地元の女性グループ九人が忙しい農作業の合間に毎年新作品に取り組み、見事なつるし雛を展示していました。その他おばあちゃん達や女性団体がひと冬かけて作った手芸も展示されていました。展示場は上からも周りも足元にも所狭しと色々な温もりのある作品が沢山並べられ

見事なものばかりでした。今年は巳年。色取り取りの布で大きな口をあけて歌っている二〇〇匹の蛇たちは、地域合唱団をイメージした可愛らしくユニークな作品でした。また災害復興を願って九人のメンバーが作った折鶴つるし雛等々、毎年独自性の作品を考案し展示しているの、来場者を楽しませておりました。展示場に入るや否や「あやー、すげーごどー！」誰もがため息でした。日頃人通りの少ない八日市近辺のこの期間は、今では観光バスも来るようになり、今年は毎日の悪天候にも拘わらず一二、四〇〇人の来場者があり、またNHK・テレビ岩手・テレビ朝日の取材が入り、知名度も上がり食堂は大繁盛し、経済効果をもたらしているようです。数人の女性達が始めたつるし雛ボランティア活動は今では大きな町おこしとなつていると思えます。今年の十一月四日の在京石鳥谷町人会交流会には十基の大きなつるし雛を持参し展示して楽しませてくださるそうです。また北寺林のこども神楽も予定されており、是非会員の皆様には、この機会にご参加

を頂き、見学にお越し頂ければ幸いです。どうぞお出っくなんせ。



今年も頑張りました！

広報担当 川村 進

少し肌寒い三月三日、駒沢オリンピック公園内体育館に足を運んだ。「二〇一三全日本綱引き選手権大会」に郷土の女子チームが出場するという事で駆けつけました。一階では開会式に備え、大会役員と共に選手達も整列し、東京消防庁音楽隊もスタンバイしていた。二階応援席には各チームの色とりどりの応援旗が眼に入った。その中に紅色に白文字の応援旗「いしどりや」の応援旗が映えていた。他チームの応援団の中には数個の陣太鼓も眼についた。綱引きと言

えば、子供の頃の運動会のイメージしか無い小生、恥ずかし乍その規模には戸惑いを感じた。頂いたパンフレットに再度眼を通すと、北は北海道から南は鹿児島まで、まさに全国的である。今年も男女合わせ百チーム超、一チームが六〜七人構成、人数の多さが容易に想像できる。競技方法は予選リーグセセットマッチで上位二位進入と決勝リーグに進み、三セットマッチでの勝負である。「いしどりや」チームは女子②グループのHで山梨・三重・神奈川を制すも、惜しくもあと一步で、決勝に進むことが出来ず、来年に希望を繋ぐ事になった。選手の皆さん、本当にご苦労様そしてお疲れ様でした。また選手を厳しくも温かい目で見守り、日夜の練習をサポートした役員の皆様にもメールを送りたい。

在京石鳥谷町人会旗の元、総勢三〇名の応援団であり、決して他チームに曳けを取らなかった。在京大迫の皆さん方も駆けつけて頂き一緒に声援を送って頂いた。花巻観光協会の黄色のハッピ・必勝の鉢巻・わんこそばの冠と、大いに花巻の宣伝に寄与した事と確

信する。某テレビ局のカメラマンもレンズを傾けながら、「わんこそばは全国的に有名ですよね」と言いながら撮影していた。放映予定は未定なそうだが・・・。

ここで選手の皆さん方に綱引きの極意・奥深さを伺うと、異口同音に「試合は力じゃ無いのよ」「一人だけ怪力が居たとしても勝ちには結びつかないのよ」「勝敗の分け目は相手チームから伝わる、綱の張り具合加減を全員で同時に同時に察知する事なのよ」とのこと、確かに観戦をみると納得できる。どう見ても体力的に負けそうも無いチームが一瞬にして全員が床に沈む姿を見ると頷ける。試合後の選手の皆さんとの慰労交流懇親会の席での会話の一コマである。

今回の綱引き大会で得た大事な事が二つある事に気が付いた。先ず、ゲーム感覚と捉えていた綱引きゲームでは無く競技であり奥深い事。二つ目は、交流懇親会の場・郷土の皆さんとの交わる事で点が線になる事であった。また来年応援には是非参加したい欲望が湧いてきた。皆さん、来年も大会会場でお会いしましょう！



監督・選手・応援団の皆さんと一緒に



いくぞ! そ~れ!! パワー全開

平成24年度在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会収支決算書

(H24.11.4 単位:円)

収入	支出	残高	備考
733,000			総会参加者 93 名(同伴含)
356,000			招待者からのお祝い
	1,117,381		総会準備費(案内状・印刷・北-)、精養軒、他支払
1,089,000	1,117,381	-28,381	

会費納入のお礼とお願い

会員の皆様には、年会費納入にご協力を頂きましてありがとうございます。

年会費は平成25年2月6日現在で、郵便振り込み99名、総会の当日受付43名、計142名284,000円の納入がありました。

会費収入は会報発行や町人会の活動に有効に活用させて頂いております。

今年も楽しい再会をめざして、役員一同張り切っております。

同郷の友人知人をお誘い合わせの上、総会・親睦交流会へのご参加をお待ちしております。

※つきましては、本年度の会費を郵便振替用紙にてお振込み下さいますようお願い申し上げます。

年会費は年間を通して受け付けております。

年会費2,000円 口座名義:在京石鳥谷町人会 口座番号:00180-7-261234

会計担当 山口

在京石鳥谷町人会のホームページを開設しました。在京石鳥谷町人会で検索できます。是非ご覧下さい。皆様のご意見(掲載したい情報)をお寄せ下さい。

http://zaikyoishidoriya.web.fc2.com/

問い合わせ=事務局 大竹

maoh154124@gmail.com

24年度より新役員の紹介

役職	担当	氏名	住所	出身地
副会長	総務	吉田久美子	東京都北区	新堀
副会長	企画	熊谷 四郎	東京都八王子市	石鳥谷
幹事	企画	菊池 正弘	埼玉県比企郡	石鳥谷
幹事	総務	下川 友子	神奈川県川崎市	八重畑
幹事	広報	上川 信行	東京都練馬区	八幡
幹事	広報	川村 進	埼玉県上尾市	新堀

編集後記

会報の発行にあたっては会員の皆様のご協力ありがとうございます。会員皆様の会報ですので、体験記、エッセイ、最近思うこと、お気づきの点等、何でも結構ですので、投稿をお待ちしております。

会報冒頭の事務局宛お願いします。 広報部

今後の主な行事予定

※5月19日(日) 13時～(雨天決行)

第12回下町散策

会費3~4,000円(散策後の交流会の実費)

集合場所:当日JR王子駅中央口にご集合下さい。

コース:名主滝~王子稻荷神社~王子神社~飛鳥山公園~日光御成り街道一里塚~旧古河庭園~この先は...

問合せ先:企画担当 河嶋 稔

TEL 090-4175-2669

※6月15日(土)~6月17日(月)

ふるさと復興支援ツアー 賢治と啄木を訪ねるバスの旅

主催:花巻市在京ふるさと会

【在京花巻人会・在京大迫人会・在京東和人会・

在京石鳥谷町人会(今回幹事担当)】

定員40名 会費38,000円 締め切り:5月31日(金)

コース:東京駅八重洲南口・(東北道)~花巻市内・賢治記念館見学 花巻温泉泊~岩手公園・啄木記念館・小岩井農場・盛岡手づくり村・石鳥谷酒匠館・田んぼアート見学 渡り温泉泊~歴史公園えさし藤原の郷・(東北道)~東京駅

問合せ先・郵送先:事務局・総務担当 大竹 雅夫

TEL/FAX 042-332-3025

※10月18日(金)~20日(日)

花巻・石鳥谷観光物産展

(於:阿佐ヶ谷すずらん通り商店街)

※11月4日(月) (今年度は月曜日の祝日に開催)

在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会

(於:上野精養軒)